自然言語処理 Vol.1 No.1 編集後記

言語処理学会の会誌「自然言語処理」の第 1 号を無事お届けすることができました．完成までには，編集委員会はもとより理事会の各委員の方々にも色々とご意見を頂き，参考にさせていただきました．しかし，何かと不完全な点もあると思いますので，学会会員はもとより，多くの読者の方々からのご意見をお待ちしております．

なお，論文の査読・編集作業を迅速に行うことは，当学会の目標とするところですが，特に第 1 号はスケジュール的に厳しいものがあり，通常以上に催促を行うことになりました．ここに，時間的制約の中，ご協力いただいた関係者の皆様へ感謝の意を表します．

さて，本雑誌の出版は，色々な観点から LaTeX を用いていわゆる DTP により行っています．すなわち，投稿者にはできるだけ学会指定のスタイルファイルを用いて LaTeX により原稿を作成していただき，これを学会側で調整し，dvi ファイルを直接印刷会社に持ち込むことにより発行しています．

雑誌発行の準備作業の始めは，スタイルファイルさえ作成すれば，後は，通常のカメラレディ原稿の作成と同様，何も問題がないと考えていました．しかし，印刷をお願いしている東京書籍印刷と細部の打ち合わせを重ねるうちに，色々と知らなかったことが明らかになってきました．

一般雑誌などの書籍の印刷は，16 ページを単位として 1 枚の大きな紙に印刷します．これを機械で折り畳み，各ページとしています．実際，東京書籍印刷の工場の見学をさせていただきましたが，ごく小数の作業員の方々の前で大きな機械が次々と雑誌を「組み立てて」いく様子は壮観でした．

ここで問題となったのは，雑誌のページ数をできれば 16 の倍数，せめて 8 の倍数にしなければならないという点でした．論文のページに制限をつけないということを本雑誌の特色としているわけで，担当者としては，このような印刷上のページの制限があることは考えてもいませんでした．

偶然ですが，幸い本号では，このページの制限はあまり問題になりませんでした．実は，この編集後記を少し長めに書けるのも，この制限のおかげです．しかし，次号からは，この点を十分考慮して編集作業を行う必要があると反省しています．

また，表紙は九州芸術工科大学の伊原久裕先生にお願いし，すばらしいものを作成していただきました．しかし，これまた，印刷上の制限があることがわかりました．「表紙」そのものは問題ないのですが，印刷は，表紙，背，裏表紙全体を 1 枚の紙に行われます．このため，雑誌の厚さが変わると背の幅が変化し，表紙のデザイン全体を調整しなければならないのです．確かに，伊原先生からは，雑誌の厚さを早く連絡してほしいとの依頼がありました．その時点では，このようなことはまったく意識していませんでしたので，なぜ厚さがデザインに影響するのか，不思議に思っていました．

通常は，ページ数を固定するか，毎回デザインの調整を行うかのどちらかであるとのこと．本誌では，多少のページ数の増減があってもあまり影響がないよう，背の字を小さ目にし，表紙が多少

(ミリの単位ですが) 号によって左右してもしかたがないということにしました．

このように，未知のことが沢山あったわけですが，次号以降，この反省にたって，順調に雑誌を発行していこうと思っております．しかし，言うまでもなく，雑誌の最も重要な部分は論文の内容ですので，これからも多数の論文投稿をお願いいたします．

島津　明 (NTT)
徳永　健伸 (東京工業大学)
中村　順一 (九州工業大学)

平成 6 年度役員

会長	長尾　眞
副会長	田中穂積
理事	樽松　明 (編集) ・ 島津　明 (編集) ・ 江原暉将 (事業)
	中村順一 (事業) ・ 松本裕治 (渉外) ・ 飯田　仁 (総務・財務)
監事	石綿敏雄 ・ 淵　一博

会誌編集委員会

編集委員長	樽松　明
編集委員	石崎　俊 ・ 片桐恭弘 ・ 佐藤理史 ・ 島津　明 ・ 杉村領一
	田窪行則 ・ 竹沢寿幸 ・ 田村直良 ・ 徳永健伸 ・ 長尾　確
	中川裕志 ・ 中野　洋 ・ 橋田浩一 ・ 速水　悟 ・ 平川秀樹
	丸山　宏 ・ 宮崎正弘